

# WEEKLY

Rotary



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話<0586>24-1931 フax 491-0858

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

URL:<http://rc138.org> E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

2021年12月23日  
第3490回例会

**プログラム**  
**卓話**  
**青山紀子氏**  
**(東海ラジオ パーソナリティ)**  
**テーマ「マスク越しでも伝わる  
話し方のポイントを伝授します」**

ロータリーソング 「四つのテスト」

第3489回例会の記録  
2021年12月16日(木)

会長挨拶

梯 國彦

皆様、こんにちは

先週のクリスマス例会には、沢山のメンバーの方々にご参加をいただきましてありがとうございました。親睦活動委員 伊藤光治委員長を中心とする委員会の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

本日のお客様は、中日新聞一宮総局長 伊藤智英様です。本日の卓話を後ほど宜しくお願ひ申し上げます。

皆様方に、本日は寂しくなるお知らせがございます。一宮ロータリークラブの歴史と伝統を支えて下さった大先輩 渡辺尚彦さんと長尾大八郎さんから退会の届けがあり、これを受理する事になりました。12月 23 日の本年度最終例会にて御挨拶を頂きます。大勢の方々にご出席いただきますよう、宜しくお願ひ致します。

本日のロータリーの学びは臨床心理士 皆藤章さんの「命懸けで人の話を聴く」です。新型コロナウイルスが世界に蔓延する今、多くの企業や地域でメンタルヘルスの問題が、コロナウイルスと同じように問題となっています。こうした問題への理解や支援が不足していることを認識した各地のロータリアンが行動を起こしています。「命懸けで人の話を聴く」が問題解決の糸口ではないかと思います。是非、一読をお願いします。

次回の予定

12/30 休会 年末年始休業  
1/ 6 休会 定款第7条第1節d  
1/13 例会変更 一宮4RC合同新春例会  
1/20 クラブアッセンブリー 上半期報告

# 一宮

題字 PG 安野譲次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

会長 梶井 関戸 徹人  
幹事 鈴木 彦吉 戸田 真夫  
副会長 猪子 洋志 内藤 幹  
会長エレクト 副幹事 吉田 真  
会報委員長 藤内 幹

ロータリーの友12月号

浅井貴裕

12月は疾病予防と治療月間であり、横組み5頁には2021-22年度国際ロータリー会長シェカール・メータ氏のメッセージがあり、最後には「誰もが健康で長生きする権利があります。みんなの人生を豊かにするために奉仕すれば、今日あなたの行いが他のだれかが長生きすることにつながるのです」と記されており、利他の精神を鑑みます。

横組み7頁からは、一コロナ禍でも負けない—私の「元気に過ごすコツ」と題し、様々な地区のロータリアンの健康への取り組みについて紹介されています。18頁からは、東京2020パラリンピック、陸上女子マラソン金メダリスト道下美里選手、ご自身も福岡中央ロータリー衛星クラブの会員でもあり、スポーツを通して世の中を元気にしたいという信念に基づく活動について紹介されています。甥っ子さんとの会話には、サン=テグジュペリが星の王子様で書いた「本当に大切なものは目に見えない」に相通するものがあるようになります。

横組み24頁には、第2750地区で行われた世界ボリオデーの活動報告もあります。

縦組み4頁からは2020年11月7日に第2500地区 地域融合フォーラムで徳島大学大学院医歯薬学研究部生体栄養学分野教授 宇宙栄養研究センター長 二川 健先生の筋肉と栄養素について書かれています。SDGsの観点からも地球資源の消費も考慮し、動物性たんぱく質と植物性たんぱく質の摂取配分を見直し、大豆をはじめとする食事で筋萎縮予防を図る取り組みについて紹介されています。生活習慣病を患ってみえる方は、食生活を見直す良いきっかけになるのでは?と思われます。

是非、ご一読ください。

委員会報告

ニコボックス

倉内賢一

☆ 青木俊憲君

本日の卓話は中日新聞社一宮総局長の伊藤智英さんからいただきます。一宮出身で新聞記者としての立場から見た一宮についてお話をいただけるのではと期待しております。

☆ 浅野 一君

くじ運のない私が豪華な賞に当たりました。選択肢をこわい妻に与えた賜物だったと思います。ありがとうございました。

☆ 山田一仁君

先週のクリスマス家族会で、楽しく過ごさせて頂き、ケトルまで頂けた喜びで! 梶会長、親睦活動委員会の皆様ありがとうございました。

☆ 村手 誠君

先日の家族会でエアウイーヴをいただきました土曜日に伊藤親睦委員長に自宅まで届けて頂きました。セミダブルを2つ頂いたので、妻と別部屋で使わせていただきます。本当にありがとうございました。

☆ 梶 國彦君 鈴木洋志君

一宮市出身でいらっしゃいます中日新聞一宮総局長の伊藤智英様に卓話を頂く喜びで…

我々が気付いていない一宮の良さを聞けることを楽しみにしています。

**出席報告**

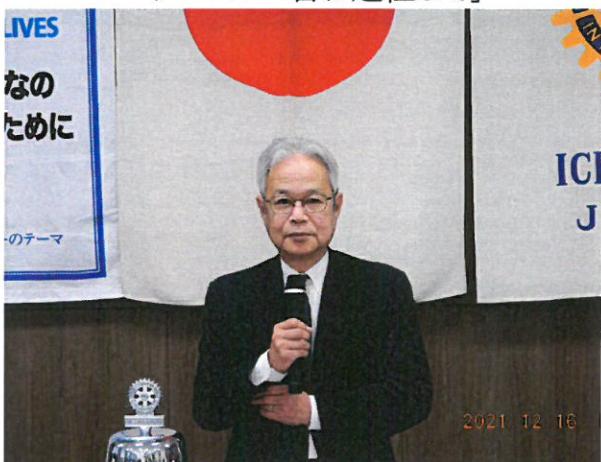
現在の会員数	109名
本日の出席数	60名
前々回の出席率	100%

\* \* \* \* \* プログラム \* \* \* \* \*

卓話

伊藤智英君

(中日新聞社一宮総局長)  
テーマ「一宮に赴任して」



▼自己紹介

旧尾西市三条の日光川沿いに生まれた生糸の一宮人です。三条小、尾西一中、一宮高校、慶應大学を経て1987年に中日新聞社に入社し、富山県高岡市や金沢市、名古屋市、愛知県東海市、三重県松阪市で勤務し、昨年8月に一宮総局に赴任しました。現在、58歳で定年まであとわずかとなり、おそらく最後となる地方勤務を故郷で勤めることができます。今年1月にも商工会議所の常議員会でお話させていただきましたが、その時と若干、内容が重なるかもしれません、よろしくお願ひいたします。

▼地方記者

先ほど私の略歴を紹介させていただきましたが、記者生活34年のうち、地方での勤務はおよそ19年間、名古屋本社勤務も地方に加えると、ほとんどが「地方記者」だったといつても過言ではありません。地方記者の現状はというと、全国紙は相次いで記者を撤退させて県庁所在地に集約しており、どんどん少なくなっています。一宮でも毎日新聞が撤退し、朝日や読売は一人の記者が尾張全体をカバーしている状況です。アメリカでは地方紙がなくなって行政機関の腐敗が進んだとの事例が報告されています。西尾張13市町村を記者6人でカバーしている中日新聞一宮総局の責任はますます重くなっていると感じています。

▼地方勤務で感じたこと

初任地の高岡市や次の金沢市は縁もゆかりもない土地で、当時は若氣の至りで行政の批判記事をよく書いたものでした。その時によく行政関係者や地元紙の記者から「どうせ3年もすれば伊藤くんも異動していくのだろうから、この地域がどうなろうが関係ないだろう」と言われたのを今でも覚えています。確かにその通りで、年数を経て昔を顧み、赴任した東海市や松阪市では「その地域に寄り添い、ともに悩み、ともに歩む」というスタンスを忘れないように努めてきたつもりです。現在は幸いなことに故郷に赴任しており、実家も空き家ですが健在で、「寄り添う」どころか、今後もこの地で生きていく市民の一人として、暮らしやすい街づくりに少しでも貢献できればと思っています。

▼尾張まち物語

一宮総局に赴任して中日新聞の尾張版で始めた企画が「尾張まち物語」です。毎週日曜日付けで4、5回の連載企画で、今年の4月から始めました。ある場所を定点観測して、そこに行き交う人々やまつわるストーリーを描くものです。一宮ではこれまでに、本町商店街と名鉄百貨店一宮店を取り上げました。本町編では大志小学校の子どもの通学を見守る戦争体験者のお年寄り、名鉄百貨店編では弱視の女性が来店すると店員の皆さんのがリレーしてサポートすることなどを紹介しました。新聞ではどうしても行政や警察などからの広報や情報をもとに記事を書くことが多くなりますが、こうした企画では市井に生きる方々の人模様を皆さんに伝えることができて大好きで、今後も行政などに頼らずにこうした企画や記事を載せていきたいと考えています。

▼神田元市長

少し横道にそれますが、先日、一宮市長、元愛知県知事を歴任された神田真秋さんに約20年ぶりにお会いしました。初めてお会いしたのは神田さんが知事選の候補者として名前が挙がったとき。当時、名古屋本社社会部で愛知県政を担当していました。鈴木礼治さんが引退を表明してから神田さんが県政与党の候補として決着するまで半年近くも候補者選びが迷走し、ほとんど休みが取れないほどの取材合戦でした。知事に当選後も、愛知万博の計画を大幅に変更した際の取材では連日連夜、知事公舎に夜回りして神田さんの一言一句を漏らさず聞き、表情の変化も見逃さないようにしていたのを昨日のように覚えています。時には「万博をつぶす気か」とも怒られましたが。ご存じの通り、愛知万博は大成功で、先月に再会した時には「今度遊びに来なさい」と優しく声をかけていただきました。

▼最後に

新聞社は今、大変厳しい状況にあります。その理由は皆さんよくご存じなのでここで口にはしませんが、記者という仕事、特に地方の記者ではなくてはならない存在だと自負しています。行政の動きをチェックして世の中の動きを、市井の人々の人間模様を描いて街の息吹を読者に正確に伝えていくという重要な役割を担っていると思います。一宮でも各分野で活躍されている皆さんをはじめ、多くの市民がさまざまな活動を展開しており、そうした動きも隨時、報じていきます。今後ともご協力ををお願いします。本日はありがとうございました。